

研究員の眼

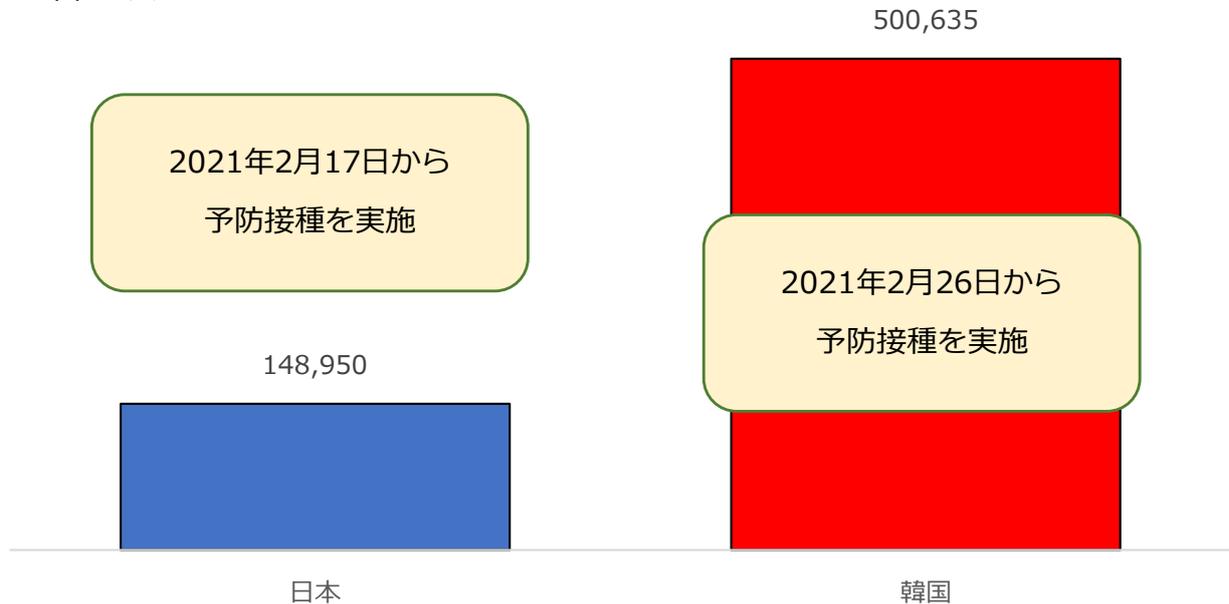
韓国の新型コロナワクチン接種が加速化 — 接種開始 13 日目で累計接種者数が 50 万人を超える —

生活研究部 主任研究員 金 明中
(03)3512-1825 kim@nli-research.co.jp

韓国の新型コロナワクチンの接種速度が速い。2月26日から新型コロナワクチンの接種を始めた韓国では、3月11日0時現在まで累計500,635人（アストラゼネカ487,704人、ファイザー12,931人）に対してワクチンの1次接種が行われた。2月17日から接種を始めた日本の累計接種者148,950人（3月10日現在）を大きく上回っている。

日韓における新型コロナワクチンの予防接種の実績（累計）

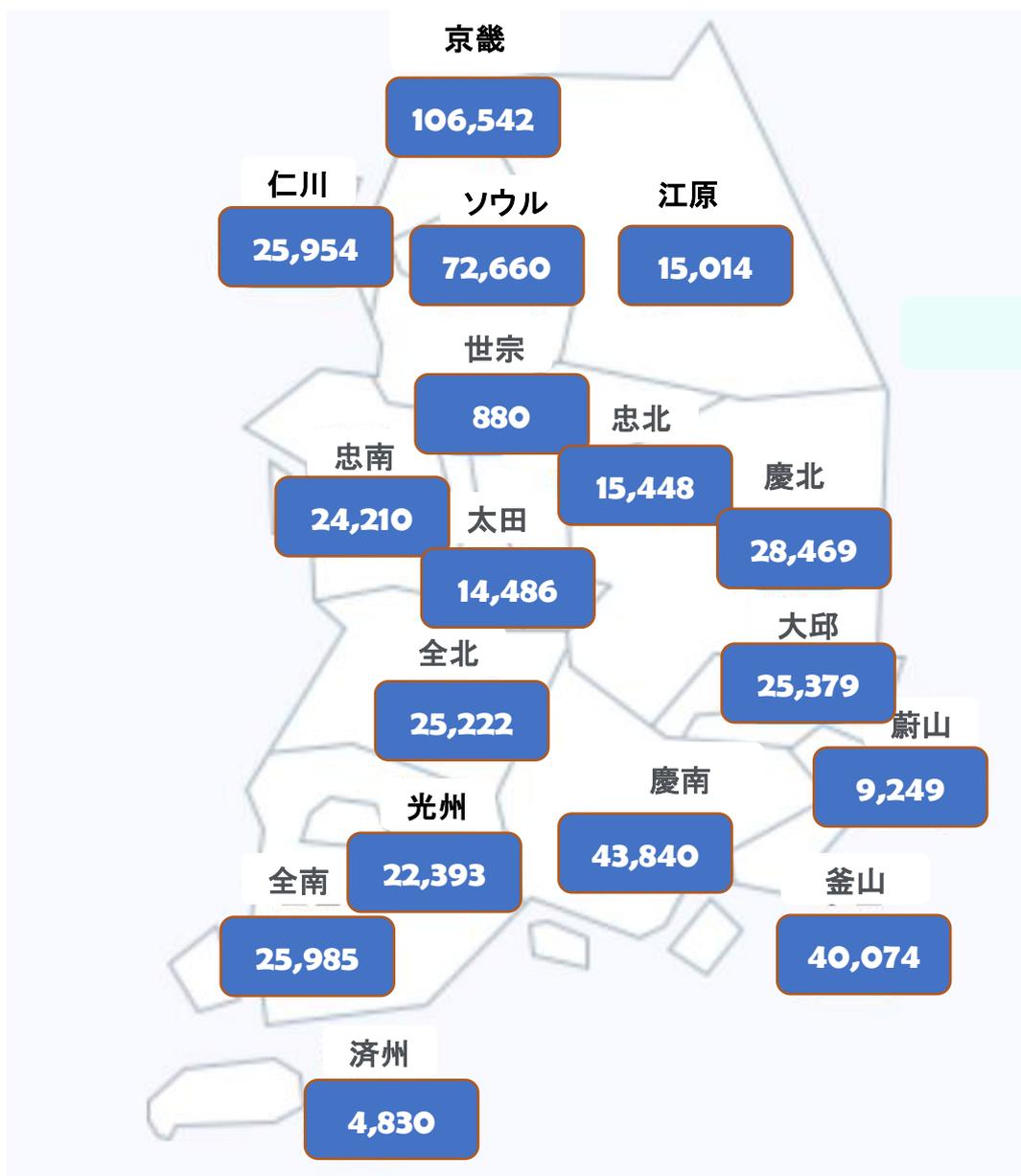
単位：人



出所) 日本：厚生労働省ホームページ「新型コロナワクチンの接種実態」（2021年3月10日17時基準）、韓国：中央防疫対策本部ホームページ「予防接種実績総現況」（2021年3月11日0時基準）

韓国の新型コロナワクチンの接種者数（累積）を地域別にみると、京畿が106,542人で最も多く、次いでソウル（72,660人）、慶南（43,840人）、釜山（40,074人）の順であった。京畿の接種者数が多い理由としては、人口や療養病院が他の地域より多いことが挙げられる。現在、韓国では新型コロナウイルス感染者の治療病院の医療従事者、療養病院、療養施設に入院、入所している65歳未満の患者および医療従事者などに優先的にワクチンの接種が行われている。韓国政府は65歳以上高齢者の臨床データがまだ不十分だと判断し、当面の間は接種対象を65歳未満にする方針である。

日韓における新型コロナワクチンの予防接種の実績（累計）



出所) 韓国：中央防疫対策本部ホームページ「予防接種実績総現況」（2021年3月11日0時基準）

新型コロナウイルスワクチンの対象者別接種時期（案）

第1四半期（1～3月）	第2四半期（4～6月）	第3四半期（7～9月）	第4四半期（10～12月）
・療養病院・療養施設入院の入所者と従事者	・老人福祉施設の利用者と従事者 ・65歳以上(高齢者から順次接種)	・慢性疾患者（成人） ・50～64歳の成人	・2次接種者、未接種者あるいは再接種者
・新型コロナウイルス感染者の治療病院の医療従事者 ・高危険医療機関従事者 ・1次対応要員（疫学調査員、救急救命士等）	・医療機関及び薬局従事者（第1四半期の接種対象者以外の者）	・軍人、警察、消防及び道路、橋りょう、トンネル、河川、公園、緑地、下水道などの社会基盤施設従事者	
・精神療養・リハビリテーション施設等の入所者と従事者	・障がい者・ホームレス等の施設入所者と従事者	・小児、青少年教育、保育施設従事者 ・18～49歳の成人	

出所）韓国：中央防疫対策本部ホームページ「新型コロナウイルスワクチンの対象者別接種時期（案）」

韓国政府は2月末現在、国立中央医療院の中央予防接種センターを含めて全国に5カ所の「予防接種センター」を設けてワクチンの接種を実施しており、今後は「予防接種センター」を全国に250カ所（3月には21カ所に、5月以降は250カ所に）まで増やす計画である。

では、なぜ韓国は日本を上回るスピードでワクチン接種が行われているだろうか。その理由としては、日本は3月10日現在ファイザーのワクチンだけが承認・供給されていることに比べて、韓国はファイザー（2月3日特例収入承認¹、3月5日承認）やアストラゼネカ（2月10日許可）のワクチンが供給されており、現時点でのワクチンの供給量が日本より多い点が挙げられる。日本ではアストラゼネカのワクチンが2月5日に、モデルナのワクチンが3月5日に承認を申請しており、5月ごろに承認されることが予想されている。

韓国政府はこれまでCOVAX配分量1000万人分、アストラゼネカ1000万人分、ファイザー1300万人分、モデルナ2000万人分、ノババックス2000万人分、ヤンセン600万人分、計7900万人分のワクチンを確保していると発表している。但し、他の国でもワクチンを確保するための競争が広がっており、今後ワクチンが適時に供給できない可能性も排除できない。

韓国が現時点で日本より新型コロナウイルスワクチンの接種が速い2番目の理由としては、両国のワクチン接種の対象者が現時点で異なる点が挙げられる。日本の場合3月10日時点のワクチン接

¹ 正式に承認されるまでには医療従事者に限って接種が行われる。

種の対象者はワクチンの「先行接種」に事前同意している医療従事者約4万人と医療従事者（約480万人、患者を搬送する救急隊員や患者と接する業務を担当する保健所職員を含む）に制限されている。一方、韓国は療養施設の入所者や従事者、そして医療従事者など対象者の範囲が日本より広く、現時点では日本よりワクチンの接種対象者数が多いと考えられる。

3番目の要因としては、韓国は日本が適時に確保できなかった、ファイザーワクチンなどの新型コロナウイルスワクチン接種のために使われる特殊型注射器4000万本を1月末に契約完了し、確保した点が挙げられる。特殊型注射器を使用すると、通常の注射器では1瓶で5回しか接種できないファイザー製の新型コロナウイルスワクチンを6回接種できる。さらに、韓国の医療機器メーカーは新型コロナウイルスワクチン接種用の特殊注射器の量産を2月からスタートしており、3月からは生産量を月2000万個まで増やす計画である。

以上のような理由により、現時点では韓国の新型コロナウイルスワクチンの接種者数が日本を上回っているものの、ワクチンの確保量では日本が韓国を上回っており、今後ワクチンの対象者が段階的に拡大されると、日本でも韓国以上の速さでワクチンの接種が行われると考えられる。但し、より効率的にワクチンを接種するためには、ワクチンが節約できる特殊注射器が足りない問題を解決する必要がある。ワクチンとともに特殊注射器が安定的に供給されれば、国民の健康を守ると共にオリンピックを成功的に開催する確率も高まる。幸いにテルモは9日米ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンを1瓶から7回接種できる注射器を開発したと発表した。同社は3月末から国内で特殊注射器を量産し、まず約2000万本を2022年3月末までに生産する予定である。但し、供給量が多くないことは心配である。

日本のマスコミによると、日本政府はすでに新型コロナウイルスワクチン接種用の特殊注射器約8千万本を購入したいという要望を韓国に伝えているようだ。筆者としては韓国政府が日韓関係の改善のために、また日本のオリンピックが成功裏に開催されるためにも、韓国の医療機器メーカーが開発・生産している特殊注射器を無条件で日本に供給することを望む。両国民の大事な命を守るために、両国が協力する必要性が益々高まっていることを日韓の政治家らがぜひ理解していただきたい²。

² 本稿は、「韓国における新型コロナウイルスワクチン接種が加速、接種開始7日目で累計接種者数が22.5万人を超える」ニューズウィーク日本版2021年3月5日に掲載されたものを加筆・修正したものである。
https://www.newswweekjapan.jp/kim_m/2021/03/225.php